

広報

# もり 中部の森林

私の森語り「こどもたちとみどりをつなぐ橋渡し役になる」  
2024ミス日本みどりの大使 安藤きらり



写真：ムササビ(愛知所管内)

## 特集

- ・紅葉散策に出かけよう

## シリーズ

- ・各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、  
中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2024/No.247



ブナの黄葉

中部森林管理局の管内は、北海道側の富山県から太平洋側の愛知県まで南北に広がり、垂直には標高の低い都市近郊林から二、〇〇〇メートルを超える北アルプスの高山帯まで広がっていることから、九月中旬から十二月上旬まで各地で変化に富んだ秋を楽しむことができます。

秋の行楽シーズンを迎え、紅葉散策にお薦めの国有林五箇所を紹介いたします。

紅葉散策に出かけよう  
 ～秋の行楽に～  
 お薦めの国有林～

北アルプスと言えば三、〇〇〇メートル級の山々がそびえる、日本でも険しい山岳エリア。その一つが立山。

富山県にある雄山（二、〇〇三メートル）、大汝山（三、〇一五メートル）、富士の折立（二、九九九メートル）の三つの山を合わせて立山と呼びます。初心者からファミリーまで毎年たくさん登山客が訪れる山岳エリアです。

紅葉の見頃は例年、九月中旬から十月上旬。



雄山から室堂平の紅葉を見下ろす

～初心者からファミリーまで～  
 およま おおなんじやま ふじのおりたて  
 雄山・大汝山・富士の折立  
 （富山県立山町）



紅葉が落差89mの不動滝を囲むように彩る

日本の滝一〇〇選に選ばれ、紅葉の名所としても有名な米子大瀑布。落差八九メートルの不動滝は黄色を中心とした紅葉が滝を囲みこむように映え、権現滝では、もみじの赤色が滝の流れを彩り鮮やかに飾ります。滝までの遊歩道や周遊コースには二つの滝が撮影できる絶景ポイントもあり、紅葉狩りが楽しめます。

紅葉の見頃は、例年十月中旬から下旬。

～彩り鮮やかな～  
 秋の米子大瀑布は絶景！～  
 よなこだいばくふ  
 （長野県須坂市）

岐阜市の中心部に位置する金華山国有林は、その名前の由来ともいわれる、ツブラジイが晩春から初夏にかけて開花し、山肌が黄金色に染まる風景が有名ですが、山麓の岐阜公園と山頂の岐阜城は、飛騨・美濃紅葉三十三選に選ばれており、秋の彩は見事です。

紅葉の見頃は、例年十一月上旬から下旬。



金華山山頂にそびえる岐阜城と紅葉

～紅葉に映える岐阜城～  
 きんかざん  
 金華山自然観察教育林  
 （岐阜県岐阜市）



紅葉とのコントラストが見事な高樽の滝

森の中心部を「青川」とも呼ばれる付知川が流れ、高樽の滝、高時の滝、地獄淵など数多くの滝や淵があります。天気の良い日に、遊歩道を散策しながら眺める、澄みきった吸い込まれそうなエメラルドグリーン渓谷と美しく流れ落ちる滝、紅葉して赤や黄色に染まった木々とのコントラストは絶景です。

紅葉の見頃は、例年十月下旬より十一月上旬。  
【東濃森林管理署】

〜深山の情趣に満ちた森と渓谷〜  
付知峡自然休養林  
(岐阜県中津川市)



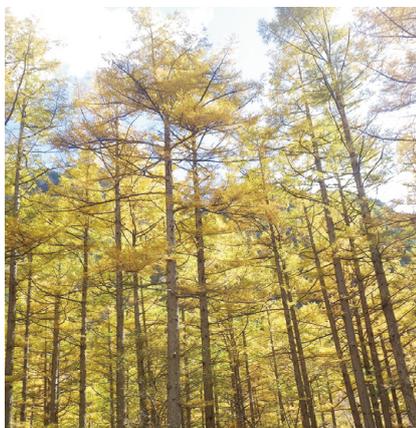
カエデやクヌギがくらがり渓谷の清流を染める

春は鮮やかな新緑の中で野鳥のさえずり、夏は涼しい清流にカジカガエルの鳴き声、足元にはテイカカズラ、ギンラン等の山野草など、四季折々の魅力に定評のあるくらがり渓谷では、秋にハイキングコース沿いのカエデやクヌギが清流を赤黄に染めていきます。

紅葉の見頃は、例年十一月中旬から十二月上旬。

【愛知森林管理事務所】

〜溪谷の清流を赤黄に染める〜  
くらがり  
園刈風致探勝林  
(愛知県岡崎市)



カラマツの黄葉

・森林散策などは、自己責任が原則となります。秋の日没は早く、急に暗くなり冷え込むことから、体温調節が行いやすい服装や歩きやすい靴を身に着け、事前に天候などの情報収集を行きましょう。

・樹木を傷つけたり、植物を持ち出したりしないようにしましょう。

紅葉は、日中温かく、夜から朝にかけて急激に冷え込み、寒暖の差が大きくなるときれいに色づいていきます。管内では、北から南へ、山から里へと徐々に移動する紅葉を長い期間楽しむことができますが、お出かけの際には注意が必要です。

安全で楽しい紅葉散策のために



マスタケ (写真撮影のみお楽しみください)

- 中部局管内の  
お薦め国有林はこちら↓
- 富山県内の  
紅葉情報ははこちら↓
- 長野県内の  
紅葉情報ははこちら↓
- 岐阜県内の  
紅葉情報ははこちら↓
- 愛知県内の  
紅葉情報ははこちら↓



同支部は、社会貢献活動として、毎年、木曽地域の国有林に所在するレクリエーションの森を主体に、環境美化の奉仕活動を行っています。今年には会員三十名と当署職員が参加し、廃材の撤去では、各自が背負子しよいこを利用して片道約五〇〇メートルの道を往復すること数回、普通トラック二台分に相当する量運び出しました。除草作業は、休養林内の林道上赤沢線沿



歩道の板材を撤去する参加者

境整備作業が行われました。六月二十六日は、長野林業土木協会木曽支部が主催し、赤沢自然休養林内の遊歩道に設置された木橋きょうの修繕工事で発生した廃材の撤去と、林道沿線の除草作業が行われました。

六月二十七日は、木曽御岳自然休養林内の田ノ原天然公園（以下「公園」）において、長野国有林森林整備協会木曽支部、王滝村や当署職員約六十名が参加し、木製遊歩道整備が行われました。公園は御嶽山への登山道の一つ「王滝口」の起点となっており、夏山登山者の増加を前に、安全に利用いただくため、公園内の古い木製歩道を撤去しました。普段の急峻な現場作業で鍛えられた参加者が多く、湿地帯で足場も悪い中、



オオハンゴンソウ駆除作業の様子

一人で四枚以上の板材を運ぶつわものもおられ、予定した区域内の撤去は全て終了することができました。また、八月九日には、赤沢自然休養林内の併用林道沿線で「赤沢溪谷を美しくする保護管理協議会」主催による特定外来生物「オオハンゴンソウ」の駆除作業が行われ、両協会、長野県木曽地域振興局や上松町、当署職員など約六十名が参加しました。炎天下の中、参加者は汗だくになりながら、繁



木製遊歩道整備ボランティアの参加者

殖力の強いオオハンゴンソウがこれ以上拡がらないよう根ごと抜き取ったうえで、折り曲げてポリ袋に詰め込み、普通トラック四台分を駆除することができました。当署では、今後も地元の自治体や関係団体等と連携・協力し、山村地域の振興に努めてまいります。

レクリエーションの森の環境整備  
 (赤沢・木曽御岳自然休養林)



小学校高学年の部 最優秀賞「ぼくの木製一輪車」

えなの木、もりの木、  
きになる木コンテスト  
く木づかい作品コンテスト

【東濃森林管理署】

九月六日から八日、岐阜県恵那市の共同福祉会館において、「えなの森林づくり推進委員会」と「恵那市」が主催する「第十五回えなの木、もりの木、きになる木コンテスト」が開催されました。

この催しは「木にさわってみよう！道具を使って何か作ってみよう！私たちの暮らしの中には、木



中学生の部 最優秀賞「天然木のテーブルランプ」

でできたものがたくさん。木を活かして森を守る」をテーマにした木工作品コンテストです。

今年市内の小中学生から、夏休み中に制作した作品一九点の応募がありました。それぞれの作品には、創作に至った背景や、製作する段階で苦労した点などの解説が添えられており、会場には作品に対する生徒の思いが伝わる力作が所狭しと展示され、大いに盛り上がりました。

作品の出来栄もさることながら、添えられたエピソード等も相まって、採点する審査員泣かせと

なりました。

期間中には、会場の一角を利用して東濃森林管理署コーナーを設け、十月から始まる「木材利用促進月間」のPRや、御神木の街として知られる東濃地域を紹介する展示を行うなどしてコンテストへ積極的に関わりました。

これから多くの方々へ、森林・林業の魅力、木材利用の推進について、地元関係者の皆様と共  
に情報発信等を行います。



会場の一角を利用して木材利用推進月間等のPR

こぼれ話

中学生の部最優秀賞作品「天然木のテーブルランプ」は、クイズ付きでした。家のまわりにある木で工作し、使った木は十種類とのこと。作品とは別に使用した木が並べられ、「何の木かわかりますか？」と問いかけています。拡大してみました。果たして、木の肌を見て判断できるでしょうか。(答えは十ページにあります。)



《各地からの便り》

国有林作業現場等  
視察交流会を開催



【名古屋事務所 南木曾支署】

九月二十日、名古屋地域の木材関連産業に携わる方など約三十名参加のもと、国有林作業現場等視察交流会を開催しました。この交流会は、川下の木材産業従事者や建築士等が、川上の森林・林業の実情や取組について理解を深め、両者の交流を図ることを目的に、名古屋木材組合と連携して、平成二十五年から毎年実施しているところ です。

今年度は、南木曾支署管内の南 蘭 国有林（長野県南木曾町）において木材生産事業現場と、製材・木材加工工場を視察しました。木材生産事業の視察箇所は、区域が約六七㍎、生産量六、八〇〇方㍎を予定する規模の大きな事業地で、架線集材と車両系集材を併用しています。

事業の受注者である（有）今井木材から、架線集材の仕組、集材機

の操作方法、索張り方法等に加え、併用している高性能林業機械の説明を受けました。

視察を行った土場からは、対岸の山に張られた架線（約九八〇㍎）が一望でき、搬器に吊り下げられた木材が土場に搬入され、プロセッサにより造材されるまでの工程を間近で見ることができました。本格的な架線集材を初めて見る参加者が多く、木材がどのように運ばれてくるのか興味深く見学していました。

午後は、南木曾町で製材・木材加工業を営む（株）勝野木材の



架線集材の様子を見学する参加者

製材工場の見学を行いました。同社は、関連会社による木材の伐採・搬出に始まり、建築用材や社寺用材の生産販売、新素材の開発等、木材に関わる一連の事業を通じて、地元の森林・林業、木材産業の発展や活性化に取り組むことを基本理念としています。会社概要等の説明後に、製材工場と隣接するモデルハウスを見学しました。

角材の製造工程では、製材後の乾燥で含水率を一定に管理し、乾燥後は細やかで厳密な修正挽きを行い、一〇〇分の一ミリの精度で加工する技術を見学しました。また、ヒノキ端材から香りの成分「ヒノキチオール」を抽出する商品開発等も見学し、木曾ヒノキの高品質化や多様な活用等の取組に対して、参加者から数多くの質問が出されました。

参加者へのアンケートでは、「厳しい自然の中で細心の注意を払いながら作業されている姿が印象深かった」「普段は何気なく目にして



工場内で説明を受ける参加者

いる木材が、これほどの手間と技術を費やされてできていることを実感した」「木曾ヒノキを製品にする努力に感銘を受けた」「説明から担当者の熱い思いが伝わってきた」等の感想が寄せられました。

今後、川上と川下の交流により、林業と木材産業相互の理解が深まるよう、継続した取組を行う予定です。